

## 日本版DMO形成・確立計画

## 1. 日本版DMOの組織

申請区分	広域連携DMO・地域連携DMO・ <b>地域DMO</b>	
日本版DMO候補法人の名称	南紀白浜観光局	
マーケティング・マネジメント対象とする区域	和歌山県白浜町	
所在地	和歌山県白浜町	
設立時期	平成29年度内(予定) (平成28年度に設立準備組織を立ち上げ、平成29年度内に設立を目指す)	
職員数	7人(予定)	
代表者(トップ人材:法人の取組について対外的に最終的に責任を負う者)	(氏名) 選定中「専従」 (出身組織名) ※白浜町内から選定	地域の様々なパイプ役となり、在任期間中、様々な取組で成果を挙げている人材を選定中。
事務局長(実務責任者で経営担当)	(氏名) 選定中「専従」 (出身組織名) ※白浜町内から選定	リーダーシップ(指導力)及びマネジメント(組織内外での調整力)能力を備え、組織運営の責任を負う。
各部門(各種データの収集・分析、旅行商品の造成・販売)の責任者(専門人材)	(氏名) 井上 里美 (出身組織名) 株式会社JTB西日本	町の重要施策の戦略策定を中心に、商品企画、プロモーション等を担う。
連携する地方公共団体の担当部署名及び役割	白浜町観光課(観光行政、重要施策との連携) 白浜町総務課(まちづくり施策)	
連携する事業者名及び役割	白浜観光協会(着地型旅行商品) 白浜温泉旅館協同組合(インバウンド、MICE観光) 白浜町商工会(土産物開発) 紀陽銀行(資金調達、事業計画) 和歌山大学(観光人材育成) JR西日本、明光バス(アクセス改善)他	
官民・産業間・地域間との持続可能な連携を図るための合意形成の仕組み	(該当する要件) ①～③に該当(社員総会、理事会、委員会、協議会を設置)。 (概要) 多様な関係者の合意形成機能を有する委員会を設置するほか、白浜ブランド管理、温泉観光、スポーツ合宿、MICE観光、土産物開発の5分科会を持つ協議会を設置し日常的な連絡調整を行う。	
法人のこれまでの活動実績	(活動の概要) 「白浜町まち・ひと・しごと創生総合戦略」「白浜町温泉街活性化構想推進計画」を平成28年度に策定し、「DMO白浜設立準備協議会」を平成28年5	

(別添) 様式 1

	<p>月に設置し、協議会の検討を経て法人を設立予定（平成29年度中）。          （定量的な評価）          新法人のため、実績無し。</p>
<p>実施体制</p>	<p>（実施体制の概要）          白浜町及び町内経済団体（白浜観光協会、白浜温泉旅館協同組合、白浜町商工会）が母体となり、町内にある団体が連携し、メンバーには、行政、観光関係団体、観光関連事業者、教育機関、金融機関など多様な関係者が参画するなど産官学金が密接に連携した運営を実施。</p> <p>別添資料① 体制図</p> <pre> graph TD     WhiteBeach[白浜町] &lt;--&gt; DMJ[DMO白浜代表者]     subgraph Core [白浜温泉街活性化推進会議(仮称)]         DMJ         Roles["・DMO白浜代表者 ・マーケティング責任者 ・PR責任者 ・白浜町担当者 ・温泉観光担当 ・スポーツ合宿・MICE推進担当 ・土産物開発担当 ・金融機関担当 ・白浜観光協会担当者 ・白浜町商工会担当者 ・白浜温泉旅館組合担当者"]     end     Core --- Stakeholders["宿泊施設 観光集客施設 商業施設 地域住民 和歌山県 観光庁 政府観光局"]     Core --- Committees["温泉観光部会 スポーツ合宿誘致部会 土産物開発推進部会 周遊観光推進部会 観光インフラ整備部会 広報PR推進部会 投資・資金計画部会"]     Core --- Sectors["メディア 宿泊施設 交通事業者 飲食事業者 物販事業者 ネット事業者"]     </pre>

**2. 日本版DMO候補法人がマーケティング・マネジメントする区域**

【区域の範囲が分かる図表を挿入】

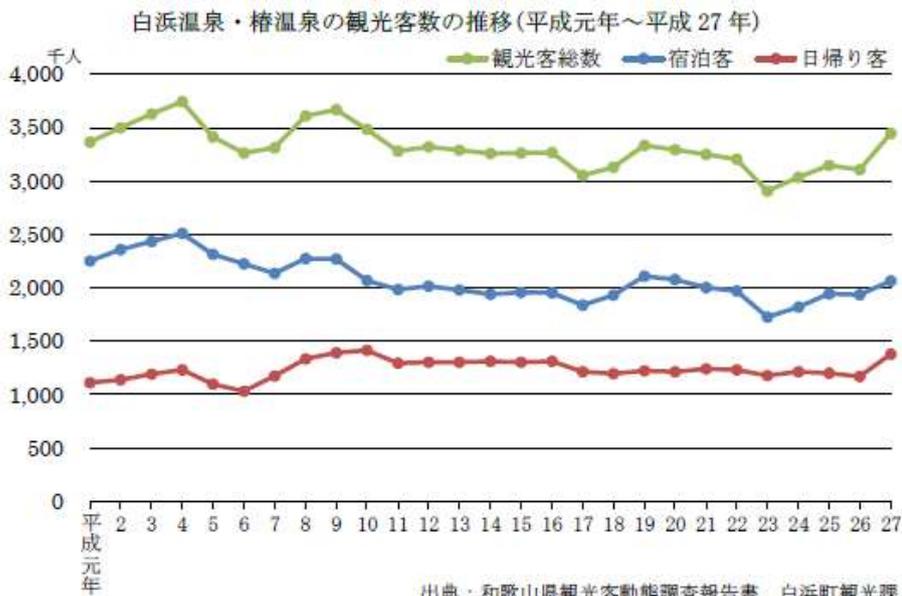


【区域設定の考え方】

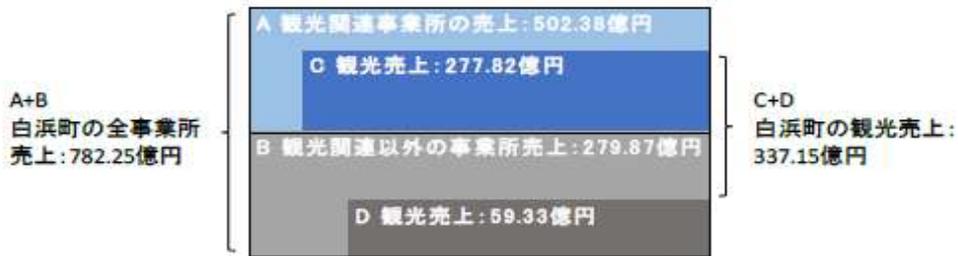
白浜町

【観光客の実態等】

平成27年の観光客総数は3,444,030人、宿泊客数は2,064,264人（観光客総数の59.9%）で、平成4年をピークに下降傾向であるが、日帰り客数はほぼ横ばいで推移している。

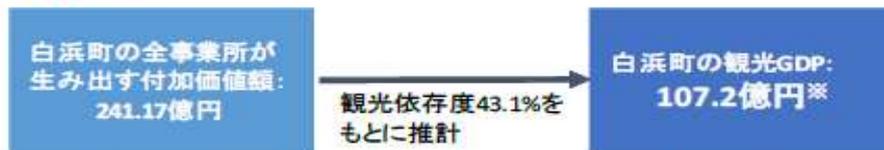


平成25年度の白浜町観光産業経済効果実態調査



白浜町全事業所の観光売上額	337.15 億円	(全事業所売上 782.25 億円の 43.1%)
観光関連事業所の観光売上額	277.82 億円	(観光依存度 55.3%)
非観光関連事業所の観光売上額	59.33 億円	(観光依存度 21.2%)

○白浜町の観光 GDP\*7



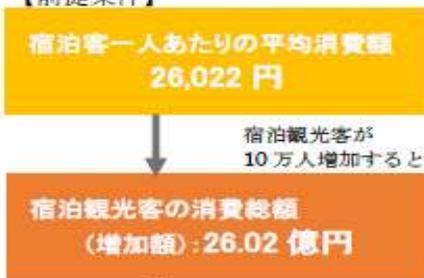
※この金額は、白浜町全産業の付加価値額の44.5%となる。売上額の業種構成比と付加価値額のそれとは若干の差異があるため、観光GDPの割合は、43.1%(観光依存度)そのものとはならない。

白浜町の全事業所が生み出す付加価値額は241.17億円(経済センサスによる)である。  
観光依存度(43.1%)を用いて推計される白浜町の観光による付加価値額(観光GDP)は107.2億円となる。  
なお、観光GDPのうち、従業員などの人件費を示す雇用者所得(72.3億円)が7割近くを占める。

○白浜町の観光における経済波及効果(産業連関表を用いたシミュレーション)

白浜町の観光部門に関わる産業連関表(13部門\*)を用いて、白浜町に宿泊観光客が10万人増加した場合の経済波及効果は、次のとおり算出された。

【前提条件】



出典：平成20年度和歌山県観光統計調査

項目	一人あたりの平均消費額	×10万人
宿泊費	14,652円	14億6,520万円
飲食費	4,362円	4億3,620万円
交通費*	—	—
入場・観覧費	1,752円	1億7,520万円
土産・買物費	4,956円	4億9,520万円
その他	300円	3,000万円
合計	26,022円	26億220万円

※交通費については白浜町に限定できないため算入しない



宿泊観光客が10万人増加すると、消費総額は26.02億円増加する。  
この消費によって、白浜町にもたらされる経済波及効果額は、38.42億円(効果倍率は1.48)と推計される。また、生産誘発額から推測される雇用効果として約462人の増加、白浜町の税収効果(個人市町村民税および法人市町村民税)として約3,609万円の増加が見込まれる。

**【観光資源】**

**○観光施設**

白良浜（海水浴場）、1, 350年を超える歴史があり、白浜温泉のなかでも最も古くから知られ、日本書紀に「牟婁温湯（むろのゆ）」「紀温湯（きのゆ）」と記された湯崎温泉と記される白浜温泉街、漁業振興施設「フィッシャーマンズワーフ白浜」、とれとれ市場、円月島、三段壁、千畳敷といった景勝地、椿温泉、日置川温泉

**○歴史資源・自然**

**【天然資源】**

□吉野熊野国立公園区域内の自然景観や南紀熊野ジオパーク内の自然遺産

- ・ 白浜温泉、椿温泉
- ・ 美しい景観の円月島、千畳敷、三段壁、泥岩岩脈
- ・ 白砂青松の白良浜
- ・ 熱帯魚の泳ぐサンゴ礁の海
- ・ 番所山公園の暖地性植物群 など

□国指定天然記念物のオオウナギが生息する富田川

□アユやアマゴなどの清流魚が豊富な日置川

□日本の滝百選に選ばれている八草の滝 など

**【天然現象】**

□円月島に沈む夕陽

□本州で一番早く海水浴場開きが行われるほどの温暖な気候 など

**○文化**

□日本書紀などに記された斉明、持統、文武天皇や有間皇子来訪の史実

□日本三古湯のひとつに数えられる白浜温泉や古くから湯治場として栄えてきた椿温泉を取り巻く情緒ある温泉街

□農業や藍染め、炭焼きなどの伝統産業などの体験および農家等への宿泊

□ダイビングやカヌーなどの自然景観と共存した体験

□映画やドラマのロケーション撮影地、著名人ゆかりの地

□新鮮な魚介類を使った料理、銘菓、特産品

**○イベント・商業施設**

□郷土の祭りや、献湯祭、温泉神社式典などの神事

□本州で一番早い海水浴場開き

□トライアスロン、マラソン、ビーチラグビーなどの各種スポーツ大会

□花火大会、砂まつり大会、湯のまちしらはまおどり など

□アドベンチャーワールド、フィッシャーマンズワーフ、とれとれ市場

**○【宿泊施設】**

約100施設 約3,000室 約10,000人収容

**○【利便性】**

JR白浜駅、白浜空港、高速バスターミナル（大阪、京都、東京など）

- ・ 関西国際空港より電車で約2時間
- ・ 新大阪、大阪駅より電車約2時間30分
- ・ 羽田空港より約70分

**○【外国人観光客への対応】**

白浜町、観光協会、旅館組合によるWi-Fi整備、多言語対応情報発信

今後はDMOが主体となり多言語による観光情報発信、環境整備を実施予定

### 3. 各種データ等の継続的な収集・分析

収集するデータ	収集の目的	収集方法
観光入込客数	観光地の集客状況把握のため	施設入場者数等の把握、
観光客消費単価	観光消費力把握のため	アンケート調査を自主事業として実施
観光客満足度（リピーター率）	観光地、観光プログラムの満足度状況把握のため	アンケート調査を自主事業として実施。
スポーツ合宿、MICE観光誘致数	スポーツ観光の実態把握のため	自主事業の実績値、及びスポーツ団体等へのアンケート調査
宿泊者数実態調査	宿泊利用者数の実態把握のため	宿泊事業者へのアンケート調査

※上記の「収集するデータ」の初期値計測のため、ビッグデータ活用等による調査手法検討。

### 4. 戦略

#### (1) 地域の強みと弱み

	好影響	悪影響
内部環境	<b>強み (Strengths)</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日本最古の温泉地</li> <li>・ 日本有数の観光地としての知名度</li> <li>・ 約100施設の宿泊施設</li> </ul>	<b>弱み (Weaknesses)</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 観光案内所、装置等の多言語整備不足</li> <li>・ 駅前等の景観未整備</li> <li>・ 周遊型観光エリアの整備不足</li> </ul>
外部環境	<b>機会 (Opportunity)</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 空港、鉄道、道路のインフラ整備</li> <li>・ 政府の施策による外国人客増</li> <li>・ 白浜空港の国際化</li> <li>・ 宿泊施設の海外資本による国際化</li> </ul>	<b>脅威 (Threat)</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域間競争によるインバウンド客の奪い合い</li> <li>・ 経済情勢によるインバウンド客の衰退</li> <li>・ 人材不足による機会損失</li> </ul>

#### (2) ターゲット

○第1ターゲット層 国内シニアFIT層
<b>○取組方針</b> 南紀の海産物のブランド化や日本最古の温泉ブランドを魅力的に発信することで、四季折々の白浜を楽しめる仕掛けづくり、とりわけ冬季でも温暖な白浜の気候を活かした取り組みを進めるほか、かつて新婚旅行のメッカであった白浜温泉への再訪を促すキャンペーンを実施することで、国内FIT層へのアプローチ、新規来訪者の増加と再訪率の向上を図る。
○第2ターゲット層 インバウンド客
<b>○取組方針</b> 2020年までに訪日外国人客4000万人を目標にしている政府方針を白浜にも浸透させるためインバウンド客が訪問しやすい観光インフラ整備、情報発信を実施すると共に、白浜空港の国際化を積極的に推進していく。

(別添) 様式 1

○第3ターゲット層 MICE観光、スポーツ合宿誘致
○取組方針 エリア内に多くの宿泊施設を持つ強みを活かしたMICE観光、スポーツ合宿を、冬季をはじめとする観光閑散期を中心に積極的に誘致することで、通年での観光客増を図ると共に、新たな観光客層の掘起しを行う。

(3) コンセプト

①コンセプト	<u>①日本最古の温泉ブランドを核とした「温泉の街・白浜」</u> <u>②南紀広域周遊観光の宿泊拠点白浜</u> <u>③水産資源、動物テーマパークを活かした白浜ブランド創出</u>
②コンセプトの考え方	年間約300万人を超える観光客が訪問する白浜は日本最古、有数の温泉観光地としての魅力を持ちながら、世界遺産熊野古道などの周遊型観光、水産資源、動物テーマパークなど時代に即した観光資源の開発を行っている。今後はDMO白浜を中心に「温泉の街・白浜」ブランド力の強化を図ることで、シニア、インバウンドFIT層に向けた更なる観光客増を図るものとする。

5. 関係者が実施する観光関連事業と戦略との整合性に関する調整・仕組み作り、プロモーション

項目	概要
戦略の多様な関係者との共有	<ul style="list-style-type: none"><li>・観光経済情報（KPIなど）を公表し、観光振興の地域経済への波及効果の「見える化」</li><li>・観光関連情報を提供するセミナーの開催により、多様な観光関連事業者の交流の場を提供（例：会員サービス、人材育成など）</li></ul>
観光客に提供するサービスについて、維持・向上・評価する仕組みや体制の構築	<ul style="list-style-type: none"><li>・温泉地白浜ならではの観光サービス（温泉地周遊観光や土産物等）の開発・提供</li><li>・観光人材の質の向上（観光人材育成）</li></ul>

一元的な情報発信・プロモーション

- ・プレスリリースポータルサイト構築による中核観光資源の管理（多言語対応）
- ・ターゲット国を絞ったプロモーション（例：香港、台湾など東南アジア圏富裕層等）
- ・観光案内所の運営
- ・戦略的な観光地整備計画の実施

基本目標と具体的施策（網掛けは重点取組施策）



**6. K P I (実績・目標)****(1) 必須 K P I**

	単位	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度
●旅行消費額	円	26,022			
●延べ宿泊者数	人	1,934,981			
●来訪者満足度	%				
●リピーター率	%				

※申請時点において、具体的な数値目標の記入が困難なため、指標項目のみの記入とする。

**(2) その他の目標**

	単位	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度
●収益実績	円				
●観光事業者満足度	%				

※申請時点において、具体的な数値目標の記入が困難なため、指標項目のみの記入とする。

※「観光事業者満足度」とは、域内の経済・産業への活性化にどれだけ波及したかを測る独自の評価基準であり、観光入込客数、観光客消費単価、観光プログラム参加者数、観光客満足度（リピーター率）、スポーツ合宿・M I C E 誘致数、宿泊者数などを重点指標とする評価基準。

**7. 活動に係る運営費の額及び調達方法の見通し****(1) 収入**

年度	総収入 (円)	内訳
2016 年度	42,615,000 (円)	【国からの補助】 42,615,000 (円) 【白浜町からの補助】 0 (円) 【構成団体からの補助金・委託金】 0 (円) 【収益事業収入】 0 (円) ※地方創生加速化交付金を充当
2017 年度	50,000,000 (円)	【国からの補助】 25,000,000 (円) 【白浜町からの補助】 25,000,000 (円) 【構成団体からの補助金・委託金】 0 (円) 【収益事業収入】 0 (円) ※地方創生推進交付金を充当
2018 年度	40,000,000 (円)	【国からの補助】 16,019,000 (円) 【白浜町からの補助】 22,981,000 (円) 【構成団体からの補助金・委託金】 0 (円) 【収益事業収入】 1,000,000 (円) ※地方創生推進交付金を充当予定
2019 年度	40,000,000 (円)	【国からの補助】 13,044,000 (円) 【白浜町からの分担金】 24,956,000 (円) 【構成団体からの補助金・委託金】 0 (円) 【収益事業収入】 2,000,000 (円) ※地方創生推進交付金を充当予定

(別添) 様式 1

(2) 支出

年度	総支出	内訳
2016 年度	42,615,000 (円)	【一般管理費】 10,315,000 (円) 【プロモーション事業】 12,000,000 (円) 【旅行商品の開発・販売】 4,000,000 (円) 【人材育成】 2,300,000 (円) 【調査費】 14,000,000 (円)
2017 年度	50,000,000 (円)	【設立準備経費】 2,700,000 (円) 【一般管理費】 22,400,000 (円) 【マーケティング】 12,000,000 (円) 【国内外プロモーション、 観光関連商品開発等】 12,900,000 (円)
2018 年度	40,000,000 (円)	【一般管理費】 24,700,000 (円) 【マーケティング】 6,500,000 (円) 【国内外プロモーション、 観光関連商品開発等】 8,800,000 (円)
2019 年度	40,000,000 (円)	【一般管理費】 24,700,000 (円) 【マーケティング】 6,500,000 (円) 【国内外プロモーション、 観光関連商品開発等】 8,800,000 (円)

※2016 年度の事業を実施した上で、次年度以降の事業及び事業支出内訳に反映する。

(3) 自律的・継続的な活動に向けた運営資金確保の取組・方針

- 行政等からの分担金・委託事業
  - ・白浜町からの分担金
  - ・観光案内所の運営をはじめとする白浜町等からの委託事業
- 収益事業
  - ・着地型観光商品の造成・販売
    - ① 温泉地周遊観光商品開発  
温泉体験プログラム（外湯めぐり等）、土産物開発
    - ② スポーツ合宿・M I C E 観光  
域内の宿泊施設、自然環境を活かしたスポーツツーリズム（合宿誘致）
    - ③ B I D などによるエリアマネジメントビジネス  
温泉施設整備を目的とした地域税（B I D）の受け皿機関としての機能や白浜町からの指定管理業務の受け皿となる

## 8. 日本版DMO形成・確立に対する関係都道府県・市町村の意見

白浜町は、(一社)南紀白浜観光局を当該自治体における地域DMOとして登録したいのでDMO白浜設立準備協議会とともに申請します。

## 9. 記入担当者連絡先

担当者氏名	高梨 鉄也
担当部署名(役職)	観光課観光商工係(主任)
所在地	和歌山県西牟婁郡白浜町1600番地
電話番号(直通)	0739-43-6588(内線156)
FAX番号	0739-43-7825
E-mail	kanko@town.shirahama.wakayama.jp

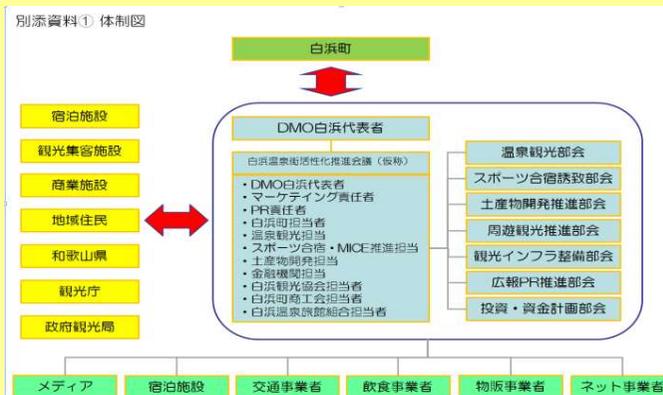
## 10. 関係する都道府県・市町村担当者連絡先

都道府県・市町村名	和歌山県白浜町
担当者氏名	愛須 康德
担当部署名(役職)	観光課(課長)
所在地	和歌山県西牟婁郡白浜町1600番地
電話番号(直通)	0739-43-6588(内線150)
FAX番号	0739-43-7825
E-mail	kanko@town.shirahama.wakayama.jp

都道府県・市町村名	和歌山県白浜町
担当者氏名	湊 健
担当部署名(役職)	観光課観光商工係(係長)
所在地	和歌山県西牟婁郡白浜町1600番地
電話番号(直通)	0739-43-6588(内線154)
FAX番号	0739-43-7825
E-mail	kanko@town.shirahama.wakayama.jp

【区域】白浜町  
【設立時期】平成29年度中(予定)  
【代表者】 選定中  
【マーケティング責任者】井上 里美  
【職員数】7人(予定)  
【連携する主な事業者】  
白浜観光協会  
白浜温泉旅館協同組合  
白浜町商工会  
紀陽銀行  
和歌山大学  
JR西日本、**明光バス**他

(表:実施体制 ※別添①参照)



(表:KPI(実績・目標))※( )内は外国人に関するもの

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
旅行消費額	26,022円	—	—	—
延べ宿泊者数	1,934,981人	—	—	—
来訪者満足度	—	—	—	—
リピーター率	—	—	—	—

### 観光施設

- 【有形文化資源】
- 世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」の構成資産である熊野古道大辺路の富田坂や仏坂
  - 日本最古の温泉のひとつ・崎の湯
  - 昭和天皇や歌人などの歌碑・句碑、文学碑
  - 源平合戦で知られる熊野水軍が船を隠したという伝説がある三段壁洞窟
  - 二千本のソメイヨシノがある平草原公園
  - アドベンチャーワールド、フィッシャーマンズワーフ、京都大学水族館など

(表:白浜町観光エリア ※別添②参照)



### 自然

- 【天然資源】
- 吉野熊野国立公園区域内の自然景観や南紀熊野ジオパーク内の自然遺産
  - ・ 白浜温泉、椿温泉
  - ・ 美しい景観の円月島、千畳敷、三段壁、泥岩岩脈
  - ・ 白砂青松の白良浜
  - ・ 熱帯魚の泳ぐサンゴ礁の海
  - ・ 番所山公園の暖地性植物群 など
  - 国指定天然記念物のオオウナギが息息する富田川
  - アユやアマゴなどの清流魚が豊富な日置川
  - 日本の滝百選に選ばれている八草の滝 など
- 【天然現象】
- 円月島に沈む夕陽
  - 本州で一番早く海水浴場開きが行われるほどの温暖な気候 など

### 文化

- 日本書紀などに記された斉明、持統、文武天皇や有間皇子来訪の史実
- 日本三古湯のひとつに数えられる白浜温泉や古くから湯治場として栄えてきた椿温泉を取り巻く情緒ある温泉街
- 農業や藍染め、炭焼きなどの伝統産業などの体験および農家等への宿泊
- ダイビングやカヌーなどの自然景観と共存した体験
- 映画やドラマのロケーション撮影地、著名人ゆかりの地
- 新鮮な魚介類を使った料理、銘菓、特産品

### イベント・商業施設

- 郷土の祭りや、献湯祭、温泉神社式典などの神事
- 本州で一番早い海水浴場開き
- トライアスロン、マラソン、ビーチラグビーなどの各種スポーツ大会
- 花火大会、砂まつり大会、湯のまちしらはまおどり など
- アドベンチャーワールド、フィッシャーマンズワーフ、とれとれ市場